

## 江戸時代のお金～寛永通宝～

時代劇などを見ていると小判を 25 枚紙で包んだ「切り餅」を 4×5 列、2 段に並べた千両箱が登場します。小判 1 枚は、現在のお金に換算すると 60,000 円から 100,000 円程度と考えられていますが、こうした小判ばかりでは日常生活では使いづらく、庶民の間で流通していたのが、テレビドラマ「銭形平次」が投げる貨幣「寛永通宝」です。これは、寛永 3 年（1626）に、水戸の佐藤新助によって造られたのが始まりで、幕末まで鑄造、流通しました。通用した時期が長いため、その種類は数百種類にも及びます。現在では寛文 8 年（1668）に文銭が鑄造される以前のを古寛永銭、寛文 8 年以降に鑄造されたものを新寛永銭といいます。新寛永銭は、背（裏側）に波型文様のあるひとまわり大きい 4 文として通用とするもの、そのほかが 1 文として通用するもので、銅や鉄で鑄造されました。

旧草津宿内の寺院から数多く「寛永通宝」が確認されました。恐らく賽銭として投げられたものだと思いますが、古寛永や新寛永銭の 4 文銭、文銭など幾種類ものが含まれています。

古寛永銭のなかでも、よく見ると「寛永通宝」の文字が異なり、これは江戸の芝や浅草、大津の坂本など、鑄造された<sup>銭座</sup>の違いによるものです。また新寛永銭の 4 文銭でも、背の波型文様が 21 波のものや 11 波のものがあります。文銭でも、「寛」の文字の最後の跳ねが虎の尾のようになったものや、寛永通宝の文字が長いもの、また背に「文」「元」「小」などの文字が入ったものも見られます。



古寛永銭



4文銭 11波

21波(右)



新寛永銭 1文銭 「元」「小」「文」の文字がみえる